

8-1-3 対外活動委員会WG（水資源機構）

1. WG 発足の経緯

(1) 背景

水資源機構について平成 24 年度に常任理事会で意見交換会を行うことが望ましいとの決定があり、WG が発足された。

(2) 意見交換準備会

平成 24 年 9 月 27 日に、水資源機構本社にて、水資源機構側は副理事長以下 18 名、協会側は副委員長以下 8 名が出席し、意見交換準備会が開催された。機構側からは入札契約制度の説明があり、意見交換を行い、今後も協議を継続していくことが確認された。

意見交換後、今後は年 1 回、同程度のメンバーで意見交換会を行うことが確認された。

(3) WG の設立

水資源機構との意見交換会での「要望と提案」及び【付属資料】を作成するための WG を平成 25 年度から設立し、平成 26 年度には委員会から新たな WG 長を選出した。河川計画、河川構造、ダム・発電（地質分科会を含む）、環境の 4 専門委員会の委員長を含めた体制で検討を進めている。

2. 主な活動の記録

(1) WG の開催

令和 7 年度は 7 月 29 日に対面で WG を開催し、要望事項に関する会員へのアンケート項目の抽出と整理を行い、水資源機構に向けた「要望と提案」及び【付属資料】を作成した。

(2) 準備会の開催

令和 7 年度は意見交換会の事前協議としての準備会（幹事会）は行わず、メール等で双方の意見や資料、出席者等の確認を行った。

(3) 意見交換会の開催

令和 7 年 12 月 23 日に水資源機構本社で、機構側 13 名、協会側 15 名が出席して意見交換会が行われ、その後、懇親会が開催された。

3. 水資源機構向け「要望と提案」の骨子

意見交換会に用いた「要望と提案」は以下の通りである。

- 0. 魅力ある業界を目指して
 - 0.1. 「成長と分配の好循環」の実現
 - 0.2. 成長と分配を支える事業量の拡大
 - 0.3. 報酬制度・仕組みの整備
 - 0.4. 技術開発の推進
- I. 担い手確保・育成のための環境整備
 - 1.1. 建設産業全体の働き方改革と生産性向上に向けた取り組み推進・強化
 - 1.2. 人材の確保・育成
 - 1.3. 適切な費用計上
- II. 技術力による選定
 - 2.1. プロポーザル方式・総合評価落札方式等の的確な運用・改善
 - 2.2. 地域の担い手づくりのための地域コンサルタントの活用拡大と育成
 - 2.3. 適切な設計変更
- III. 品質の確保・向上
 - 3.1. 受発注者それぞれの役割を踏まえたエラー防止への取り組み
 - 3.2. 詳細設計及び三者会議等における総合的な品質の確保
- IV. 災害対応に向けた環境改善
 - 4.1. 被災地域に対する迅速かつ適切な災害対応と改正労働基準法遵守との両立
- V. DX 推進の環境整備
 - 5.1. 受発注者協働による働き方改革に資する DX 推進：業務効率化の促進

4. 今後の活動について

令和 8 年度についても、令和 7 年度と同様のスケジュールで、水資源機構と意見交換会に向けた「要望と提案」及び【調査資料集】、【調査資料集】概要版を作成し、意見交換会を行う。

（対外活動委員会WG（水資源機構）WG 長

富田 邦裕）